

# 完了後の評価個表

整理番号 14-1

事業名	森林居住環境整備事業	都道府県	長野県
ふりがな 地域(地区)名	きなき 鬼無里	事業実施主体	長野県
関係市町村	長野市(旧鬼無里村)	管理主体	長野市(旧鬼無里村)
事業実施期間	H14 ~ H19 (6年間)	完了後経過年数	5年

事業の概要・目的	<p>①位置等 長野市(旧鬼無里村・平成17年1月1日長野市と合併)は、長野県の北部に位置し、北に新潟県妙高市境、東に戸隠山、西は黒鼻山-堂津岳の稜線で北安曇郡に囲まれた一級河川花川の上流域の山岳地である。</p> <p>②森林の状況 当地区の森林面積は6,412ha、そのうち国有林が4,157ha、民有林は2,255haとなっている。民有林では人工林が1,085haで48.1%を占めており、間伐等の森林整備が必要となるⅢ齢級からⅧ齢級の森林が723haで約32%を占めている。また、地区内の森林のうち、水源かん養保安林が1,879ha、土砂流出防備保安林が4haに指定されており、約83%が水土保持林に区分されている。このため、森林の持つ水源かん養機能等の公益的機能を高度に発揮させるための森林整備の実施が期待されている。</p> <p>③当地区を整備する目的・意義 昭和18年に木材搬出のため鬼無里村森林組合を施工主体として開設が始まり、その後、鬼無里村に引き継がれ昭和30年からは県営工事として開設を続け昭和41年に12,327mが完成した。昭和47年に奥裾花ダム建設が(長野県企業局)始まり、付け替え道が整備され昭和53年に完成した。 奥裾花渓谷は、イワナを始めとする溪流後釣場として知られ釣り人の入込が多かったが、昭和39年に奥裾花自然園にミズバショウが発見され、また、昭和52年から54年度に林道沿線で生活環境保全林整備事業が導入され、森林整備や治山施設、防火貯水池等が完成し、さらに林道舗装が進む等環境が整ったことによりミズバショウの群生地、ブナの原生林への自然を求める観光客の入込みが増大した。 自動車の交通量はシーズン最盛期に1日2,000台以上(平均750台/日)林業活動用車両の交通にも支障が生じ、この解消のため林道改築整備をしたものである。</p> <p>(事業概要) 森林基幹道整備 大川線 車道幅員 5.50m 開設延長 7,223m 利用区域面積 6,412ha 4.00m 開設延長 1,907m 計 9,130m 総事業費 2,154,429千円 (総事業費 2,394,000千円)</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成25年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 全体計画と当該事業計画の総事業費は、計画策定時から比較して、事業費の重点配分やコスト縮減(土工量の削減と2次製品の活用等)により減額となった。また、森林整備に要する費用を計上したことにより総費用が増加した。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>3,802,888千円</td> <td>(事業採択時 3,453,840千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>3,770,981千円</td> <td>(事業採択時 2,409,000千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果(B/C)</td> <td>1.01</td> <td>(分析結果 1.43)</td> </tr> </table>	総便益(B)	3,802,888千円	(事業採択時 3,453,840千円)	総費用(C)	3,770,981千円	(事業採択時 2,409,000千円)	分析結果(B/C)	1.01	(分析結果 1.43)
総便益(B)	3,802,888千円	(事業採択時 3,453,840千円)								
総費用(C)	3,770,981千円	(事業採択時 2,409,000千円)								
分析結果(B/C)	1.01	(分析結果 1.43)								

② 事業効果の発現状況	<p>① 林道開設により、保安林整備を中心として利用区域内の間伐・保育作業がなされ、平成14年度から平成24年度間に297haの整備を行い森林施業が活性化された。</p> <p>② 奥裾花自然園までの区間を2車線にすることで、特に大型車両(観光バス)のすれ違いが容易となり、安全性の確保がなされ、合わせて、林業用車両の駐車スペースの確保ができた。</p> <p>③ 長野市及び鬼無里観光協会におけるPRも踏まえ、地元住民のみならず都市部住民の憩いの場・森林の総合的利用となる保健休養の場として、奥裾花自然園を散策する観光客、自然観察会の開催、ボランティア活動での地元小学生を交えたブナの植樹活動等、県外の中学生の修学旅行等と当該自然園を中心とした利用者が年間約4万6千人訪れ、これまでの渋滞緩和に役立ち、安心安全で自然豊かな林道として利用されている。</p>
-------------	---

<p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p>	<p>当事業により開設された林道は、長野市が定めた長野市林道の通行及び使用に関する規則に基づき管理されている。  豪雪地帯であり冬期通行止めを行うため、長野市による4月の除雪とその際の道路整備、観光シーズンにおける随時の道路整備として、草刈や側溝掃除等が行われ、維持管理状況はおおむね良好である。  利用区域内の保安林は、長野が管理しており、保安林の機能を損なわないように維持管理をしている。  また、奥裾花自然園では、平成15年度に住民と地元小学生が平成7年の地すべり災害復旧跡地にヤマハンノキ苗を植栽したことを契機に、「鬼無里ブナの森を育てる会」が発足し、ブナ苗の植樹活動を続けており、県外の中学生の修学旅行に植樹活動を盛り込む等の活動を行った。なお、地元有志によるブナ原生林での観察会が随時開催され、優れたブナの森を探索して保護、保全意識の高揚に努めている。（平成7年水源の森百選に選定）</p>
<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<p>保安林整備を中心に森林整備が実施され林内の明るい単層林や複層林、針広混交林が整備され、森林の景観が向上してきている。  林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>森林整備が行われる一方、本林道を通じた奥裾花溪谷、自然園の利用により、県外の観光者を含め自然を森林に対する理解が深まりつつある。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元の意見： 森林整備事業実施による水源かん養機能、土砂流出の防止等の公益的機能の高度発揮に寄与している。（長野県）</li> </ul> <p>早春の林道除雪等の維持管理、鬼無里山岳公園（奥裾花自然園）の維持管理、および山村振興・地域振興のためにも入園者の増加が不可欠であり、奥裾花溪谷をPRすることで期待される。（長野市鬼無里支所）</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 当事業の施工後は、林道の利用効果も上がり、これまでの観光シーズンの渋滞緩和に寄与し、また、森林整備を行うことで、水源かん養機能、土砂流出の防止等の公益的機能の高度発揮に寄与するなど、当事業の効果が発揮されていること。森林の整備及び基盤となる路網の整備が総合的に実施されていること。以上のことから、事業の必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性： 森林整備及び林道の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で実施しており、事業実施に当たってもコスト縮減に努め総事業費の削減が図られたことから、事業の効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性： 林道整備により、森林へのアクセスが容易になり、森林整備を実施するコストも縮減されることから、今後も事業効果の発現が見込まれていること。森林整備により、森林の景観が向上してきていること。以上のことから、事業の有効性が認められる。</li> </ul>

## 便 益 集 計 表

事業名：森林居住環境整備事業

都道府県名：長野県

地域(地区)名：<sup>きなさ</sup>鬼無里

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
木材生産等便益	木材利用増進便益	41,841	
	木材生産確保・増進便益	15,002	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	28,537	
	森林整備促進便益	489,263	
森林の総合利用便益	アクセス時間短縮等便益	321,560	
	フォレストアメニティ施設利用便益	2,905,356	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	1,127	
その他の便益	ボランティア誘発便益	202	
総 便 益 (B)		3,802,888	
総 費 用 (C)		3,770,981	千円
費用便益比	$B \div C = \frac{3,802,888}{3,770,981} = 1.01$		

# 位置図

